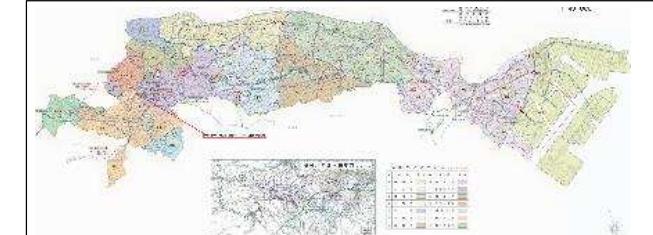


川2 配水ブロック流量の把握

求める技術：①②⑧

1 現状の課題

川崎市では、2万人～4万人を1つの単位とする中配水ブロックが40ブロックあります。各ブロックの注入点における流量が把握できており、配水管の更新計画や水圧管理、漏水防止対策をより効果的にできるように正確な流量の常時監視技術が求められます。



配水ブロック図

2 課題の詳細

各中配水ブロックの注入点（ $\phi 200\text{～}350$ ）は、2箇所～5箇所で中配水40ブロックの注入点は、合計100箇所を超えます。現在、各注入点に流量計は設置されておらず、管網解析の算定流量からブロックの水圧を把握し、配水管更新時の口径選定を実施しています。今後、中大口径管路（400mm以上の送・配水管）が一気に更新時期を迎えるため、適正な口径選定や更新時の水運用計画策定などのために正確な流量の把握が必要となっています。

3 こんな技術を求めています！

- ①200mm～350mmの流量計が不断水で設置可能であること
- ②流量の常時監視ができて、データ収集やイレギュラーアラーム機能（漏水検知など）があること
- ③メンテナンスが容易なこと
- ④震災時にも通信が可能なこと

4 技術の導入により代替が期待される業務

中大口径管路更新に関する各種委託の簡略化
漏水事故や災害時の初動調査

5 事業規模・業務量

流量計設置100箇所以上（最大流速 3.0m/s 程度）
定期メンテナンス1回/年程度